

学長選考会議議事録

(令和元年度 第2回)

令和元年6月21日(金)

14時45分から16時00分まで

法人本部3階「第一会議室」

【出席者】

経営協議会選出委員

相澤 益男 井上 弓子 里村 正治 里見 進

ストロナク ブルース

教育研究評議会選出委員

清塚 邦彦 大森 桂 大西 彰正 山下 英俊

飯塚 博 林田 光祐 根本 建二

【欠席者】

経営協議会選出委員

青塚 晃 中野 光雄

【陪席者】

小島理事 渡辺監事 竹内監事

議事に先立ち、相澤議長から、今年度第1回議事録の確認が行われ、議事録が確定された。

I 協議事項

1 第一次学長候補適任者の選考について

相澤議長から、前回決定した「実施計画」に基づき、学長候補適任者の推薦を募ったところ、資料1のとおり3名の推薦があり、資料1-1～1-2のとおり、推薦書類等が提出された旨の説明があった。

なお、小島理事から、提出のあった書類の中で、形式的な修正により一部差し替えがあった旨の説明があった。

次いで、相澤議長から、選考方法について確認の後、第一次学長候補適任者として3名を選考し、決定することについて諮られた結果、全会一致で了承された。

2 「所信を聴く会」の実施方針について

相澤議長から、「所信を聴く会」の実施方針について確認したい旨の発言があり、次いで、小島理事から、資料2に基づき説明があった。

意見交換の後、当該方針に沿って実施することが了承された。

なお、欠席した委員への配慮や司会進行の在り方等に留意することが確認された。

主な意見等は、以下のとおり。

- ・対象として「役職員」と記載されているが、教員も対象となるのか（大森委員）
- ・教員、事務職員、技官等を含め、全ての学内構成員を対象としている。（小島理事）
- ・所信を聴く会では記録を撮るのか。（大森委員）
- ・議事録のようなものは必要ないが、事務局として記録を整理しておく必要はある。出席できなかった委員のために、可能であればビデオ収録をすることも考えられる。（相澤議長）
- ・質疑応答とそこでの候補者の応答を把握することが大事である。キャンパス毎にも対応が異なると思うので、ビデオではなくて何らかの形で状況は把握しておきたい。（大森委員）
- ・事務局においては、ビデオ撮影の可能性を含め、記録の残し方を検討し、閲覧希望への対応等を含め、できる範囲で対応願いたい。（相澤議長）
- ・4回の所信を聴く会にはできる限り出席する必要がある、その上で、委員としては、直接の質問は控え、会場でどのようなやり取りが行われるのかを観ることと理解する。（里村委員）
- ・所信を聴く会を効果的に運用するには、全候補者に共通の質問を投げかけ、どのような回答をするかという時間を作る必要はないか。（里村委員）
- ・今回の学長選考の基本原則は、学長に求められる期待像を予め学長選考基準として定めていることにあり、各候補者はそれを反映して所信表明を作成している。各候補者には所信表明に書いたことを明確に説明していただくことを求めており、共通の質問に対して議論をするということについては今回説明していない。（相澤議長）
- ・本気で何をやろうとしているのかを知りたいが、それはどの機会で聴けるのか（里村委員）
- ・学長選考会議において、候補者と直接面談する場を設けている。（相澤議長）
- ・3名の候補者の中から、1名を選ぶことは大変なことである。所信表明及び4回の所信を聴く会だけで選ぶのは正直難しい。9月25日の学長選考会議でも時間の制約があるので、学長選考を効率的に進めていくためにもある程度事前に質問を整理しておくという前段階が必要ではないか。（里村委員）
- ・所信を聴く会では、所信表明の内容を学内構成員に分かりやすく説明してもらうことが重要である。一般の構成員は、文書で書かれたものだけでは、理解が難しいので、所信を聴く会では、あくまでも文書で書かれたものをわかりやすく説明するという趣旨を徹底すべきであり、選考会議の意向が前面に出ることは避けるべきと考える。（相澤議長）
- ・司会進行は、各キャンパスの長に任せられるということか。（里見委員）
- ・学長選考会議の委員かつキャンパスの長ということである。（相澤議長）
- ・質問の内容等も司会に任せるということか。（里見委員）
- ・司会が質問をするのではなく、あくまで会の進行役である。（相澤議長）
- ・学内構成員からの質問に任せるという趣旨か。（里見委員）

- ・最初の質問が出るまでが問題であり、質問が出ない場合に備え、何か一つ共通した質問があると司会者の負担が少し軽減される。共通の質問を用意しないのであれば、冒頭で、司会者は質問しない旨を伝え、出席者からの質問を促す必要がある。（山下委員）
- ・一般には初めに手を挙げて発言することを遠慮するので、その場合も考慮し最初の質問を司会者が準備するなど、所信を聴く会をスムーズに進めるための運営方法を考えておくことが重要である。（里村委員）
- ・各キャンパスの司会進行役は大変だと思うので、平等性を保つのであれば、候補者に対して、議論が始まらない場合に、司会者から幾つかの質問が出る可能性がある旨を予め伝え、必要があれば準備するよう示しておくことが考えられる。（里見委員）
- ・司会者側で質問を準備してしまうと、学長選考会議が積極的に候補者を選考するという意思を必要以上に所信を聴く会に持ち込まれることになり兼ねないので、司会者が整理していく上で返って負担になるのではないか。（相澤議長）
- ・共通の質問がないと、予測が難しい質問への対応や場の盛り上げ方などのような周辺部分のことに終始し、所信を聴く会の趣旨に合わなくなってしまうことが懸念される。各候補者が答えやすいような、場が盛り立つような質問を工夫し、司会者がやり易いように整理できるような準備はすべきである。（里村委員）
- ・当日質問が出るかどうかは特に心配していない。前回も、厳しい意見から、緩い意見まで多数出たので問題はないと考える。（飯塚委員）
- ・各キャンパスによって興味や関心のある事項が異なるため、質問を準備するとした場合には、全キャンパス共通の質問ではなく、興味があることについて各司会者がそれぞれ質問を準備し、発信する旨を候補者に伝える方法が良い。（飯塚委員）
- ・今回は、前回と異なり複数の候補者がいるので、キャンパスで興味がある質問に誘導していくという意味では、各キャンパスごとに質問を考るということでもよい。参加者から質問が出れば、予定していた質問はしなくて良いことになるが、事前に準備して会に臨むことは大事である。（里村委員）
- ・求められる学長像は公表されており、その中の4つの学長像から、共通の質問を選ぶとよいのではないか。（井上委員）
- ・司会者の方に任せるといってどうか。各キャンパスの司会者間で相談の上で、対応していただくことにしたい。（相澤議長）
- ・司会者に任せることには問題ないが、事前に候補者に対して、各キャンパスでのどのような質問をする可能性があるかを知らせておくという認識でよいか。（里見委員）
- ・事前に候補者に質問内容を通知する必要があるか否かを含め、司会者側で対応を検討していただくことにしたい。（相澤議長）
- ・キャンパス長が推薦者となっている候補者もいるので、特定の候補者が有利になるようなことが起きる可能性がないかを選考委員として心配している。どのような質問がなされるのかを予め教えておいたほうが、平等である。（里見委員）
- ・共通の質問項目を決めておくことが大事だと思う。（井上委員）

- ・どのような質問をするかの情報を候補者に与えすぎてしまうと、所信の中に回答を入れ込んでしまう可能性があるため、質問の回答とは分けて所信を考えてもらうよう伝えておく必要がある。（根本委員）
- ・資料の配付は、会場での配付を想定しているのか、それともウェブ上での配付も検討しているのか。（大西委員）
- ・当日、出席した人への配付を想定している。（相澤議長）
- ・今回の所信を聴く会は、大学外の候補者や外国人の候補者については考慮されていない。選考会議の委員は、選考に対して責任があるが、面談時間等を考えると学内の候補者であっても、時間的に不十分である。学長選考プロセスについて将来的なことも考えておく必要がある。（ストロナク委員）
- ・9月25日に実施する学長選考会議における面接時間が足りないということなのか、又は所信を聴く会にもっと時間をかけるべきという指摘なのか。（相澤議長）
- ・所信を聴く会は、各キャンパスで実施するが、あくまで最終的な決定は9月25日なので、その時期が一番大事であるという意味である。（ストロナク委員）
- ・9月25日は、学長選考会議として、3名の候補者と面談する。そのために、基礎資料が必要であれば、これから調査するということはあり得る。（相澤議長）
- ・今までの議論を踏まえて、9月25日の審議時間が足りないように感じる。記者会見の時間は変えることができないと思うので、会議の時間設定を再検討いただきたい。（里村委員）

3 その他

II その他

相澤議長から、次回開催は、9月25日の経営協議会の後を予定する旨発言があった。